



スパークス・ベスト・ピック・ファンド（ヘッジ型） コロナショックに対する運用チームからのメッセージ

足元の市場環境と運用状況について

新型コロナウイルスは潜伏期間中にもヒトからヒトに伝染し、発熱、咳などの症状を未だ感じていない感染者が、知らないうちにウイルスを広める可能性があると言われており、各国政府が感染拡大を封じ込めるために厳しい措置をとることにより、経済活動の急速な収縮が引き起こされる可能性があります。

こうした経済活動の収縮は新型コロナウイルスの感染が収束すれば改善に向かうと思われませんが、その過程で投資先企業が倒産してしまうことが最大のリスクであると考えられます。

一方、企業の本源的価値は、将来企業が生み出すキャッシュフローの総合計を現在価値に引き戻したものと定義されます。新型コロナウイルス感染症の影響による業績低迷が企業の本源的価値に占める割合というのは本来小さいものであると思われませんが、マーケットの参加者は必ずしもそのような合理的な行動をとるわけではないので、足元の株価急落に繋がっていると考えております。

つまり、企業の本源的価値を重視して投資判断をしていくと株価は割安な水準に入ってきており、この割安な水準をどこまで許容できるか、これは新型コロナウイルスの感染が収束に向かうまで、状況によっては長期間にわたる可能性もありますが、この間投資先企業が倒産することのないよう、しっかりとポートフォリオを構築することが最も重要であると考えております。

上記をふまえて当ファンドのマザーファンドにおけるポートフォリオを私どもの考えで分けると、次ページの3つのカテゴリーに分類できます。

当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社（以下当社）が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。お申込みにあたっては、販売会社からお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写することを禁じます。



販売用資料

2020年3月19日

スパークス・アセット・マネジメント株式会社

	カテゴリー①	カテゴリー②	カテゴリー③
特徴	天変地異が起きても人々が買い続けなければならない商品・サービスをビジネスの基盤にしている企業群（ディフェンシブ銘柄）	景気動向の影響をある程度受けるが、本源的価値を担保するだけの競争優位性および強固なバランス・シートを誇る企業群	その他の企業群
企業例	花王、ユニ・チャーム、テルモなど	キーエンス、シマノなど	ソフトバンクグループなど
ポートフォリオに占める比率	約30%	約50%	約20%

カテゴリー①に属するのは「本質的に安全なビジネス」を持つ企業群です。この言葉にこめられているのは、例えどのような政治・経済混乱や天変地異が起きたとしても、需要がなくなることがないような製品やサービスなどです。どのような状況においても、ユニ・チャームの紙おむつや、花王の家庭用品などのニーズは安定して存在します。テルモが手掛ける医療機器を必要とする患者もいなくなるまいでしょう。またこれらのビジネスは生産面においても特定の生産拠点に過度に依存せず、原料面でも市況高騰などにより安定調達が脅かされるような類のものではないことから、事業活動が突如停止し消費者への供給が滞ることもないと思われま

カテゴリー②は、ある程度景気動向の影響を受けるものの、優れたビジネスモデルと強固なバランス・シートを併せ持つ企業群です。例えばキーエンスは月商30か月分に相当する1兆5,000億円もの余剰資金を持っており、シマノも月商の9か月分に相当する2,700億円のネットキャッシュを抱えています。多くの企業は売り上げがゼロの場合は生き残るのが非常に厳しいですが、キーエンスやシマノのような企業はキャッシュリッチであるため、こうした環境では生き延びる可能性が非常に高く、ビジネスモデルの観点からみても相対的に安心感がある企業群です。

カテゴリー③は、カテゴリー①、②の基準には達していない部分があると思われる企業群です。直近の相場環境では上位保有銘柄であるソフトバンクグループなどがこちらに該当いたします。ソフトバンクグループは、現時点では保有株式に対する借入金の水準が低いということ、手元流動性が2兆円以上しっかりとあることから、すぐに大きな問題になるとは考えられませんが、拠り所が上場企業の株式である以上、引き続き動向を注視してまいります。

このカテゴリー③の企業群を除いても、ポートフォリオの80%程度は企業倒産リスクが限りなくゼロに近い企業、競争優位性が陰ることのない企業で占められております。こうした企業にしっかりと軸足を置いて、ここからの業績をしっかりと辛抱強く見守っていくことが、最善の投資行動であると考えております。

当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社（以下当社）が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。お申込みにあたっては、販売会社からお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写することを禁じます。



今回の急落局面での売買行動について

銘柄入替の際には、①今のポートフォリオを上回る期待リターンをもたらすような銘柄、②期待リスクを引き下げる効果のあるような銘柄、あるいはそのどちらも兼ね備えている銘柄、というポイントを重視しています。

現在のポートフォリオの銘柄と比較して、相対的に魅力のある銘柄であれば銘柄入替を検討してまいります。

今後の運用について

当ファンドの運用にあたっては、以下の7つの基準、特に足元のような下落局面では、「ダウンサイドを抑える視点」として1～3を重視しています。

- 1：ビジネスモデルがシンプルで理解しやすい
- 2：本質的に安全なビジネス
- 3：有利子負債が少ない強固なバランス・シート
- 4：高い参入障壁に守られたビジネス
- 5：持続可能な高ROEとそれに見合う利益成長
- 6：景気動向に左右されず潤沢なキャッシュフローを生み出している
- 7：資本コストを理解し、最適資本配分ができる卓越した経営陣

当ファンドと同様の運用ノウハウを活用したファンドが設定された2008年3月以降、2008年リーマンショック、2010年欧州債務危機、2011年東日本大震災、2015年中国の通貨切り下げ、2016年イギリスEU離脱など株式市場にとってネガティブとなる様々なイベントが発生しました。

また、保有銘柄においても、製品リコール問題（2013年：花王子会社カネボウの化粧品による白斑問題）、市場参加者が予想もしなかったような業績下方修正（2014年：ロート製薬）、資金繰り懸念（2016年1月：ソフトバンク子会社であるスプリント社に対して）などネガティブニュースに見舞われたことは二度や三度ではありません。しかし、当ファンドと同様の運用ノウハウを活用したファンドは市場平均を遥かに上回る超過収益を獲得して参りました。これはその都度、短期動向に一喜一憂せず、私どもがそれぞれのビジネスの長期的な展望のもとに投資判断を下してきた結果だと考えております。

長い運用期間において順調なことばかり続くことはあり得ません。今後も一時的にファンド運用成績が低迷する局面はでてくると思われまます。しかし、これまで運用期間を長期で捉えて市場平均を上回る実績を残してきたことが示すように、私どもは今後も今までどおり上記7つの基準を満たす企業への投資を継続していくことが有効であると考えております。今後もこの投資原則を忘れずに運用にあたって参ります。

当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社（以下当社）が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。お申込みにあたっては、販売会社からお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写することを禁じます。



販売用資料

2020年3月19日

スパークス・アセット・マネジメント株式会社

アワード受賞のお知らせ

スパークス・アセット・マネジメント株式会社は、Refinitiv（リフィニティブ）選定による「リフィニティブ・リップパー・ファンド・アワード2020 ジャパン」において「投資信託 株式部門 最優秀会社賞」を2年連続で受賞しました。直近7年間で6度目（2014年～2017年、2019年、2020年）の受賞となります。



REFINITIV LIPPER FUND AWARDS

2020 WINNER
JAPAN

「リフィニティブ・リップパー・ファンド・アワード」は毎年、多くのファンドのリスク調整後リターンを比較し、評価期間中のパフォーマンスが一貫して優れているファンドと運用会社を表彰いたします。選定に際しては、「Lipper Leader Rating（リップパー・リーダー・レーティング）システム」の中の「コンシスタント・リターン（収益一貫性）」を用い、評価期間3年、5年、10年でリスク調整後のパフォーマンスを測定いたします。評価対象となる分類ごとに、コンシスタント・リターンが最も高いファンドにリフィニティブ・リップパー・ファンド・アワードが贈られます。詳しい情報は、lipperalpha.refinitiv.com/lipper/をご覧ください。Refinitiv Lipperは、本資料に含まれるデータの正確性・信頼性を確保するよう合理的な努力をしていますが、それらの正確性については保証しません。

リフィニティブ・リップパー・ファンド・アワードについて

世界の20カ国以上で30年余りにわたり、高く評価されているRefinitiv Lipper Fund Awardsは、独自の投資信託評価システム「Lipper Leader Rating（リップパー・リーダー・レーティング）システム」の中の「コンシスタント・リターン（収益一貫性）」を用い、優れたファンドとその運用会社を選定し、表彰するものです。評価方法の詳細につきましては、lipperalpha.refinitiv.com/lipper/をご覧ください。

当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社（以下当社）が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。お申込みにあたっては、販売会社からお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写をすることを禁じます。

ファンドの目的

当ファンドは、主としてスパークス・オールキャップ・ベスト・ピック・マザーファンド（以下「マザーファンド」といいます。）を通じて、日本の株式に投資するとともに、株価指数先物取引等を活用し、株式市場の変動リスクの低減を図りつつ、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行うことを基本とします。

ファンドの特色

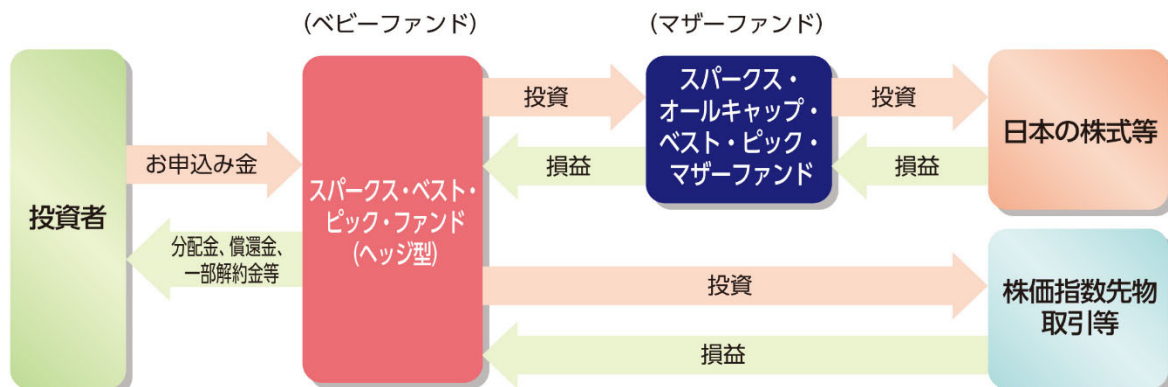
- 1
 - わが国の金融商品取引所に上場している株式の中から、『魅力的』と判断した銘柄に投資します。『魅力的』な銘柄とは、高い技術力やブランド力があり、今後グローバルでの活躍が期待出来、成長していく日本企業(新・国際優良企業)をいいます。
 - ベンチマークや業種にとらわれず、『厳選』した少数の投資銘柄群に集中的に投資を行うことを基本とします。
 - ※ 当ファンドは、ベンチマーク等を意識せず、弊社独自の調査活動を通じて厳選した少数の投資銘柄群に絞り込んで集中投資することとしているため、個別銘柄への投資において、当ファンドの純資産総額に対して実質的に10%を超えて集中投資することが想定されています。そのため、集中投資を行った投資銘柄において経営破綻や経営・財務状況の悪化などが生じた場合には、大きな損失が発生することがあります。
 - 原則として短期的な売買は行わず、長期保有することを基本とします。
- 2 当ファンドにおいては株式市場の変動リスクの低減を図ることを目的として、わが国の株価指数先物取引等の売建てによりヘッジを行います。

ファンドの資金動向や市場動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

ファンドの仕組み

当ファンドは、ファミリーファンド方式※により運用を行います。

※ ファミリーファンド方式とは、投資者の皆さまからお預かりした資金をまとめてベビーファンドとし、その資金をマザーファンドに投資することにより、その実質的な運用をマザーファンドにて行う仕組みです。
 なお、当ファンドは、マザーファンドへの投資のほか、株価指数先物取引等の売建てを行います。



当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社（以下当社）が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。お申込みにあたっては、販売会社からお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写することを禁じます。

投資リスク

基準価額の変動要因

当ファンドは、マザーファンド受益証券への投資等を通じて、国内の株式などの値動きのある有価証券に投資するとともに、株価指数先物取引等を活用しますので、ファンドの基準価額は変動します。**従って、投資者の皆さまの投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金と異なります。**

株価変動リスク

一般に株価は、個々の企業の活動や一般的な市場・経済の状況、国内および国際的な政治・経済情勢等に応じて変動します。従って、当ファンドに組入れられる株式の価格は短期的または長期的に下落していく可能性があり、これらの価格変動または流動性に予想外の変動があった場合、重大な損失が生じる場合があります。

集中投資のリスク

当ファンドは、分散投資を行う一般的な投資信託とは異なり、銘柄を絞り込んだ運用を行うため、市場動向にかかわらず基準価額の変動は非常に大きくなる可能性があります。

株式ヘッジに伴うリスク

当ファンドは、国内の株式に投資するとともに、株式市場全体の変動の影響を低減することを目的として、株価指数先物取引等の売建てを行いますので、株式市場全体が上昇しても必ずしも基準価額が上昇するわけではありません。また、完全に株式市場全体の動きの影響を排除できるものではありません。マザーファンドの株式ポートフォリオの価格上昇の寄与が株価指数先物の価格上昇の寄与より小さい場合、または、マザーファンドの株式ポートフォリオの価格下落の影響が株価指数先物の価格下落の影響より大きい場合等には、基準価額が下落する可能性があります。マザーファンドの株式ポートフォリオの価格が下落し、株価指数先物の価格が上昇する場合、基準価額の下落幅が拡大することがあります。

信用リスク

- 組入れられる株式や債券等の有価証券やコマーシャル・ペーパー等短期金融商品は、発行体に債務不履行が発生あるいは懸念される場合には価格が下がることがあり、また、投資資金を回収できなくなることがあります。
- 当ファンドは、ベンチマーク等を意識せず、弊社独自の調査活動を通じて厳選した少数の投資銘柄群に絞り込んで集中投資することとしているため、個別銘柄への投資において、当ファンドの純資産総額に対して実質的に10%を超えて集中投資することが想定されています。そのため、集中投資を行った投資銘柄において経営破綻や経営・財務状況の悪化などが生じた場合には、大きな損失が発生することがあります。

その他の留意事項

●システムリスク・市場リスクなどに関する事項

証券市場は、世界的な経済事情の急変またはその国における天災地変、政変、経済事情の変化、政策の変更もしくはコンピューター・ネットワーク関係の不慮の出来事などの諸事情により閉鎖されることがあります。このような場合、一時的に換金等ができないこともあります。また、これらにより、一時的にファンドの運用方針に基づく運用ができなくなるリスクなどもあります。

※基準価額の変動要因（投資リスク）は、上記に限定されるものではありません。

その他の留意点

- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- 収益分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益の水準を示すものではありません。収益分配は、計算期間に生じた収益を超えて行われる場合があります。投資者の購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。収益分配の支払いは、信託財産から行われます。従って純資産総額の減少、基準価額の下落要因となります。

当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社（以下当社）が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。お申込みにあたっては、販売会社からお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写することを禁じます。



お申込みメモ

※大和証券でお申込みの場合

- 【購入単位】 1,000円以上1円単位※または1,000口以上1口単位
※購入時手数料および購入時手数料に対する消費税率等に相当する金額を含めて、上記単位でご購入いただけます。
- 【購入価額】 購入申込受付日の基準価額（1万口当たり）
【換金価額】 換金申込受付日の基準価額から信託財産留保額を控除した額（1万口当たり）
【換金代金】 原則として換金申込受付日から起算して5営業日目からお支払いします。
【申込締切時間】 原則として午後3時まで（販売会社所定の事務手続きが完了したもの）
【換金制限】 信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口の換金申込には制限を設ける場合があります。
【購入・換金申込受付の中止および取消し】
金融商品取引所における取引の停止、決済機能の停止その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金申込受付を中止することおよびすでに受付けた購入・換金申込受付を取り消すことがあります。
- 【信託期間】 2018年5月1日から2028年4月14日まで
※受益者に有利であると認められたときは、受託会社と合意のうえ、信託期間を延長することができます。
- 【信託期間】 次のいずれかの場合等には、委託会社は、事前に受益者の意向を確認し、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し、繰上償還となることがあります。
●受益権の口数が30億口を下回ることとなった場合
●信託契約を解約することが受益者のために有利であると認めるとき
●やむを得ない事情が生じたとき 等
- 【決算日】 毎年4月15日および10月15日（休業日の場合、翌営業日）
【収益分配】 年2回、収益分配方針に基づいて収益の分配を行います。当ファンドには、「分配金再投資コース」と「分配金受取コース」があります。※ただし、分配対象額が少額の場合等は分配を行わないこともあります。
「分配金再投資コース」をご利用の場合：収益分配金は、税金を差し引いた後、無手数料で自動的に再投資されます。
「分配金受取コース」をご利用の場合：収益分配金は、税金を差し引いた後、原則として決算日から起算して5営業日までにお支払いします。
- 【信託金の限度額】 2,000億円を上限とします。
【課税関係】 課税上は株式投資信託として取扱われます。原則として配当控除の適用が可能です。
公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度及び未成年者少額投資非課税制度の適用対象です。
※ 上記は2020年2月末日現在のものですので、税法が改正された場合等には、内容が変更される場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

お客様にご負担いただく手数料等について

下記手数料等の合計額については、お申込金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することができません。

【購入申込時】

- 購入時手数料： 購入申込受付日の基準価額に**3.3%（税抜3.0%）**を上限として販売会社が定める手数料率を乗じて得た額

【換金申込時】

- 信託財産留保額： 換金申込受付日の基準価額に対して**0.15%**の率を乗じて得た額
- 換金時手数料： なし

【保有期間中】（信託財産から間接的にご負担いただきます）

- 信託報酬： 純資産総額に対して**年率1.683%（税抜1.53%）**
 - その他の費用等
- (1) 監査報酬、投資信託説明書（目論見書）や運用報告書等の作成費用などの諸費用（純資産総額に対して上限年率0.11%（税抜0.10%））
 - (2) 有価証券売買時の売買委託手数料等は、ファンドの運用による取引量に応じて異なりますので、事前に料率や上限額等を表示することができません。

当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社（以下当社）が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。お申込みにあたっては、販売会社からお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写することを禁じます。



ファンドの関係法人について

- 委託会社 スパークス・アセット・マネジメント株式会社
 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第346号
 （加入協会）一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会 日本証券業協会
 一般社団法人第二種金融商品取引業協会
 信託財産の運用指図、受益権の発行等を行います。
- 受託会社 三井住友信託銀行株式会社
 委託会社の指図に基づく信託財産の管理等を行います。なお、信託事務の一部につき日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社に委託を行います。
- 販売会社 下記一覧参照
 ファンドの受益権の募集・販売の取扱い、一部解約請求の受付、一部解約金・収益分配金・償還金の支払いの取扱等を行います。

販売会社		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
大和証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第108号	○	○	○	○

<特化型に関して>

当ファンドは、一般社団法人投資信託協会「投資信託等の運用に関する規則 信用リスク集中回避のための投資制限の例外」を適用して特化型運用を行います。そのため、一般のファンドにおいては、一の者に係るエクスポージャーの投資信託財産の純資産総額に対する比率として10%を上限として運用を行うところを、当ファンドにおいては、35%を上限として運用を行います。

【お問い合わせ先】 スパークス・アセット・マネジメント株式会社
 ホームページ <https://www.sparx.co.jp/> 電話番号：03-6711-9200（受付時間：営業日9：00～17：00）

当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社（以下当社）が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。お申込みにあたっては、販売会社からお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写をすることを禁じます。